

# 医療＋観光 地域に活力

倉敷成人病センター（倉敷市白楽町）と地域商社・せとのわ（岡山市北区本町）などは、医療と観光を組み合わせた「医療ツーリズム」に乗り出す。支援ロボッ

トを活用した最先端の婦人科手術を強みにインバウンド（訪日客）を取り込み、地域の活力向上につなげる。

（大河原三恵）

支援ロボットを使った婦人科手術の様子（倉敷成人病センター提供）



同センターは2023年、婦人科に近畿以西で初めて最新の手術支援ロボット・ダビンチSPを導入。子宮筋腫や卵巣のう腫など女性特有の良性疾患に対し、おなかに傷を付けない「低侵襲手術」を行う。術後の回復が早く、心理的負担も軽くなるメリットがあるという。

## 支援ロボット活用 最先端手術強み 訪日客取り込み

のための調査・実証事業」（24年度）に採択された。医療施設の清掃管理システム開発などを手がけるブルーオーシャンスマートシステムズ（同平野）を含む3社が共同で進める。

国の補助を活用し、まずは中国の富裕層をメインターゲットにプロモーションを展開している。年度内に実際に患者を受け入れるモニターツアーの開催も検討。渡航から診療、観光、帰国後のフォローまで一連の流れを構築するとともに、課題を検証し、行政の協力も得ながら解決策を探っていく考え。

プロモーションの第1弾として、昨年11月下旬に中国・北京で開催された「国際医療観光展示会」に出展。女性特有の良性疾患に対する治療と、名所観光（後楽園、倉敷市美観地区、児島ジーンズストリート）や果物狩りを組み合わせたら種類のモデルプランを紹介した。現地の旅行関係者の反応は上々で、女性の負担を考えた治療が好意的に受け止められたほか、「婦人科以外の医療も提供してほしい」といった声が寄せられたという。

プランの企画を担当する、せとのわの小林靖典社長は「診療科目の拡充を図るとともに、観光エリアを岡山県を含む瀬戸内地域に広げてコンテンツを充実させ、より実効性のあるインバウンド誘致を実現させたい」と話す。

2025. 1/11 (土)

山陽新聞に掲載